

メール送信をlocalhost (sendmail) から SMTPサーバに変更するには

2024/05/16
2025/05/26 改

現在localhostを使用して送信しているメールを、SMTPサーバ経由で送信する設定にするには、以下の項目を変更します。

1. サイト側の設定変更

1. 管理者メニューから、「システム管理」を開き、「メール設定」のタブを押下します。

お知らせ	デバックモード	メール設定	メール送信テスト	サーバ設定
ページ管理	送信者メールアドレス (MAIL_FROM_ADDRESS)			
サイト管理				
ユーザ管理	送信者名 (MAIL_FROM_NAME)			
グループ管理				
セキュリティ管理	SMTPサーバアドレス (MAIL_HOST)			
プラグイン管理	localhost			
システム管理	SMTPサーバのポート番号 (MAIL_PORT)			
ADT管理	25			

2. 以下の ①～⑤ の項目を変更し、最後に  を押下します。

SMTPサーバアドレス (MAIL_HOST)	
①	localhost ここはSMTPサーバアドレスを記入
SMTPサーバのポート番号 (MAIL_PORT)	
②	25 SMTPサーバのポート番号を記入
SMTPAuthのユーザ (MAIL_USERNAME)	
③	SMTPユーザのユーザネームを記入
SMTPAuthのパスワード (MAIL_PASSWORD)	
④	SMTPユーザのパスワードを記入 ※Gmail を使用している場合は、アプリパスワードを記入*
メール暗号化 (MAIL_ENCRYPTION)	
⑤	TLS ここは「TLS」を選択
MAIL_DRIVER	
	sendmail ここは弊社で変更します。 上記項目を変更したらご連絡ください。
	

※ 「Gmail のアプリパスワード」に関しては、[2. Gmail のアプリパスワードについて](#)を参照

3. ①～⑤ の設定を変更しましたら、弊社までご連絡ください。
「sendmail」の部分 SMTP用に変更いたします。

弊社メールアドレス：support@opensource-workshop.co.jp

4. 弊社での変更が完了しましたら再度ご連絡しますので、**必ずその後正常にメールの送受信ができるかどうかの確認をしてください。**

正常にメールの送受信ができましたらSMTPサーバへの変更は完了です。

2. Gmail のアプリパスワードについて

送信元で Gmail（有料・無料とも）を使っている場合、通常のSMTPユーザのパスワードを設定すると以下のようなエラーが表示され、サイトからのメールを送信することができません。

▲ メール設定エラーのため、メール設定を見直してください。

Failed to authenticate on SMTP server with username "[redacted]" using 3 possible authenticators.

Authenticator LOGIN returned Expected response code 235 but got code "534", with message "534-5.7.9 Application-specific password required. For more information, go to 534 5.7.9 <https://support.google.com/mail>

[redacted] - gsmtpt ". Authenticator PLAIN returned Expected response code 235 but got code "534", with message "534-5.7.9 Application-specific password required. For more information, go to 534 5.7.9 <https://support.google.com/mail>

[redacted] - gsmtpt ". Authenticator XOAUTH2 returned Expected response code 250 but got code "535", with message "535-5.7.8 Username and Password not accepted. For more information, go to 535 5.7.8 <https://support.google.com/mail/> [redacted] - gsmtpt ".

2025年3月より、Google 側のセキュリティ強化により、SMTPやIMAP/POPにおいて、ユーザ名とパスワードだけを使ったログインはすべてブロックされるようになりました。

今回の変更により、SMTPサーバを使うシステムでメール送信する際には、使用している Google アカウントによって生成された16桁の一時的なパスワード（アプリパスワード）を使って認証することによってメールの送信を行う必要があります。

2-1. アプリパスワード生成準備

アプリパスワードは、Google の2段階認証プロセスを有効にしているアカウントでのみ使用できます。使用するためにはアカウントに2段階認証を設定する必要があります。

Google の2段階認証についてはこちら

https://support.google.com/accounts/answer/185839?hl=ja&ref_topic=7189195&sjid=7753974705925330147-NC

2-2. アプリパスワードを生成

ブラウザは Google Chrome でもMicrosoft Edgeでも構いません。

1. 新しいタブを開きます。
2. 「<https://myaccount.google.com/apppasswords>」のURLにアクセスします。
3. ログインしていない場合は、ログインを要求されます。設定する Google アカウントでログインします。
4. 2段階認証を設定している場合は、ここで認証を要求される場合があります。認証を完了してください。
5. アプリ パスワード の設定画面になります。
※（安全性が低くなる旨の記載がありますが、ここは読み飛ばしてください。）
6. 「アプリ名」を入力する箇所がありますが、特定のアプリ名ではなく、サイト名を入れておくとも後から判別しやすくなります。ここでは例えば「〇〇〇〇サイト」と入れます。

← アプリ パスワード

アプリ パスワードは、最新のセキュリティ標準に対応していない古いアプリやサービスで Google アカウントにログインするための手段です。

アプリ パスワードは、最新のセキュリティ標準を使用する最新のアプリやサービスを使用している場合よりも安全性が低くなります。アプリ パスワードを作成する前に、ログインするためにアプリにアプリ パスワードが必要かどうかをご確認ください。

[詳細](#)

アプリ パスワードがありません。

アプリ固有のパスワードを新規作成するには、下にアプリ名を入力してください...

アプリ名
〇〇〇〇サイト

作成

7. 「作成」を押下します。
8. 「生成されたアプリ パスワード」が表示されますので、それをコピーしておき、「完了」を押下します。



9. メール送信画面の ④「SMTPAuthのパスワード (MAIL_PASSWORD)」の項目に、それを貼り付けて「更新」します。

SMTPAuthのパスワード (MAIL_PASSWORD)	
④	SMTPユーザのパスワードを記入 ※Gmail を使用している場合は、アプリパスワードを記入*

この時、パスワードの文字間にはスペースを入れません。

例：○⇒rn1qktdcgkxehtsd（16文字のアルファベット）

×⇒rn1q ktdc gkxe htscd（サイトの表示が壊れます）

2-3. アプリパスワードの削除

一方、セキュリティの観点からアプリパスワードはメールの送信元のアカウントを変更などで不要になった場合は、早めに削除しましょう。

※サイトからのメール送信元のアカウントを使っている間は削除しないように注意してください。

1. アプリパスワード生成時と同様に「<https://myaccount.google.com/apppasswords>」にログインします。
2. 生成されているアプリパスワード一覧が下図のように表示されますので、削除したいアプリ名の右端にあるゴミ箱マークを押下します。



特に確認のメッセージは出ません。一度削除してしまうと同じパスワードを再度設定することはできませんので、間違えて必要なパスワードを削除しないように気をつけて削除しましょう。

下図のようなメッセージができれば削除完了です。

